

事務事業名		海の安全対策支援事業			☐ 実施計画登載事業		☐ 合併建設計画登載事業								
政策体系	政策名	05 豊かな市民生活を実現する産業の振興			事業期間		予算科目								
	施策名	19 地域活力を担う水産業の振興					会計	款	項	目	事業				
	基本事業名	03 漁業経営の安定化			☐ 単年度のみ		01	06	03	01	01				
根拠法令				☒ 単年度繰返 (開始 昭和40 年度～)											
所属	部課名	農林水産部 水産課			☐ 期間限定複数年度										
	課長名	千葉 英彦			【計画期間】										
	係名	漁政係	電話	27-3111	年度 ～ 年度										
	担当者	花輪 桂子	内線	373	※全体計画欄の総投入量を記入										
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)											全体計画(※期間限定複数年度のみ)				
・航跡波対策(委託料):大船渡港内を船舶が航行することにより発生する波が、港内で漁業を営む漁業者の作業への支障、事故の発生の一因となるため、気仙郡漁連に委託し、大船渡漁業用海岸局の無線電話により、大船渡港へ入港する際に湾内徐行を励行するよう呼びかける。 ・大船渡漁業用海岸局維持(補助金):洋上で操業する漁船の安全確保のため活動している海岸局の運営を支援している。 ・海上保安協会釜石支部(負担金):海難防止活動等を行なう協会に加入し負担金を支出している。 ・岩手県水難救済会(負担金):海難救助活動等を行なう救済会に加入し負担金を支出している。また、大船渡救難所が組織されており、事務局として支部の運営業務を行っている。救済会の会員は漁業者である。 ・大船渡地区海難救助互助会(負担金):漁船等で組織し海難救助活動を行なっている互助会に加入し、負担金を支出している。											総投入量 (千円)	事業費内訳	国庫支出金		
													都道府県支出金		
													地方債		
													その他		
													一般財源		
													事業費計(A)		0
人件費	正規職員従事人数														
	延べ業務時間														
	人件費計(B)		0												
	トータルコスト(A)+(B)		0												

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標		⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	
① 手段(主な活動)		名称	
前年度実績(前年度に行った主な活動)		単位	
・委託契約締結、補助金支出、負担金納入等の事務		ア	湾内徐行呼びかけ回数
・水難救済会の運営事務(事故発生時の対応や訓練の実施等)		イ	海難救助訓練実施回数
今年度計画(今年度に計画している主な活動)		ウ	
・前年度とほぼ同じ内容			
② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等		⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)	
・海上で作業中の漁業者		名称	
・海上安全関係団体		単位	
		カ	漁業者数(漁協組合員数)
		キ	水難救済会大船渡救難所会員数
		ク	
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)	
・海難事故が抑止され、生命等の安全が図られる。		名称	
・安全に予防、救助活動等ができる。		単位	
		サ	海難事故発生件数
④ 結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか)		シ	航跡波被害発生件数
・安定して漁業を営む。		ス	

			年度	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(目標)	27年度(目標)	28年度(目標)	
			単位							
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千 円						
			都道府県支出金	千 円						
			地方債	千 円						
			その他	千 円			70	700		
			一般財源	千 円	3,145	1,645	1,470	987	1,687	987
	事業費計 (A)		千 円	3,145	1,645	1,540	1,687	1,687	987	
	人件費	正規職員従事人数	人	2	2	2	2	2	2	
		延べ業務時間	時 間	50	50	50	50	50	50	
		人件費計 (B)	千 円	200	200	200	200	200	200	
		トータルコスト(A)+(B)		千 円	3,345	1,845	1,740	1,887	1,887	1,187
⑤活動指標			ア	回	3,816	4,652	5,242	5,300	5,300	5,300
			イ	回	0	0	0	1	1	1
			ウ							
⑥対象指標			カ	人	3,004	2,960	2,356	2,980	2,970	2,960
			キ	人	178	169	170	190	190	190
			ク							
⑦成果指標			サ	件	1	0	0	0	0	0
			シ	件	0	0	0	0	0	0
			ス							

事務事業ID	588	事務事業名	海の安全対策支援事業
--------	-----	-------	------------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等			
① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？			
・湾内漁協からの要望により事業が開始した・・・航跡波対策委託/漁業用海岸局維持補助 ・明治22年に日本水難救済会が設立され、その後、岩手県水難救済会及び大船渡救難所が開所された。			
② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは前期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？			
・無線による呼びかけや、チラシの配付、関係機関による取締指導などを実施しているが、大幅な被害の軽減にはつながっていない。 ・船の安定性が高まり、無線装置の性能向上、救命胴衣着用等の安全対策向上などの徹底による、海難事故の減少が推測される。 ・大船渡救難所は三陸町との合併前の大船渡地区で組織されていたが、平成18年度に三陸地区の3漁協も加入した。 ・大船渡漁業用海岸局に関しては、年々加入者数が減少し、赤字経営となっていることに加え、震災の影響でさらに加入者が激減し、当分の間利用料収入の減少が見込まれることから平成23年度より市からの補助金額を増額した。			
③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？			
・大船渡漁業用海岸局を運営する気仙郡漁連から、震災の影響による登録漁船数の減少により経営が厳しさを増していることから、当面、数年に限り、市の財政的な支援を要望されている。			

2 評価の部(SEE)＊原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由】⇒ 海上作業における安全が確保され、漁業経営の安定化が図られる。
	② 公共関与の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 妥当である ⇒【理由】⇒ 海上保安庁等、公的機関と協力して実施している事業である。
	③ 対象・意図の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 適切である ⇒【理由】⇒ 事業の目的が海上作業時の安全確保であるため、対象は安全を確保される漁業者と、安全確保のための活動を行う団体として岩手県水難救済会大船渡救難所が適切である。 この事業により見込まれる漁業者の安全確保と安全確保支援活動の振興は、事業の目的と直接に結びつくため意図は適切である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地	☐ 向上余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 向上余地がない ⇒【理由】⇒ 大きな事故にはつながらないものの、航跡波被害は毎年のように発生している。安全操業の確保のため、関係機関と連携した、総合的な対策を継続していくことが重要である。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響	☐ 影響無 ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 影響有 ⇒【その内容】⇒ 廃止、休止した場合、漁業者が安心して操業できる環境が損なわれる可能性がある。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性	☐ 他に手段がある ⇒ (具体的な手段, 事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】⇒ 他の方法、あるいは類似の事業はない。 ☒ 他に手段がない ⇒【理由】⇒
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地	☒ 削減余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 削減余地がない ⇒【理由】⇒ 負担金、補助金であり削減の余地はないが、漁業用海岸局への補助については、期間を限定して支援強化しているものであり、経営状況の推移を見ながら段階的に補助金額を見直ししていくこととしている。
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】⇒ 現状でも必要最小限の業務量である。
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】⇒ 漁業者が主たる対象であるが、海難は国民全員が対象となる場合があり、公平・公正である。

事務事業ID	588	事務事業名	海の安全対策支援事業
--------	-----	-------	------------

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果 (2枚目と整合を図ること) <table border="1"> <tr> <td>① 目的妥当性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>② 有効性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>③ 効率性</td> <td>☐ 適切</td> <td>☒ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>④ 公平性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> </table>		① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	② 有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	③ 効率性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり	④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	(2) 全体総括(振り返り、反省点) 平成18年度において、三陸地区3漁協が、新たに水難救済会大船渡救難所に参加し、全市をカバーできる体制が整った。訓練等を充実させ、有事の際により効率的に活動できる体制づくりが必要である。 震災により、登録漁船数が大幅に減少し、海岸無線局の運営が困難な状況となったことから、当分の間に限り、支援を強化している。今後、改善状況を見据えながら、段階的に補助金を見直していく。									
① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
② 有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
③ 効率性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり																					
④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
(3) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☒ 現状維持 事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☒ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) 今年度同様に継続して事業を実施する。 漁業用海岸局の運営支援に関しては、海の安全を維持・確保する観点から、当分の間に限り支援を強化している。今後、改善状況を見据えながら、段階的に補助金を見直していく。		(4) 改革・改善による期待成果 左記(3)の改革改善案を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td>●</td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持	●		×	低下		×	×
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持	●		×																			
	低下		×	×																			
(5) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等 特になし。																							

2次評価者	(職 名) ※原則として施策の主管課長 水産課	(氏 名) 千葉 英彦
-------	-------------------------	-------------

4 事務事業の2次評価結果

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 ① 記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択) ☐ 記述不足でわかりにくい ☐ 一部記述不足のところがある ☒ 記述は十分なされている ② 評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択) ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されていない) ☐ 一部に客観性を欠いたところがある ☒ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)		(3) 評価結果の根拠と理由 海難事故の防止と万が一の事故発生時の救助等に連携した体制が期待される。 漁船や養殖施設等の復旧も徐々に進んでいることから、海の安全対策に一層意を配していく必要がある。																					
(2) 2次評価者としての評価結果 <table border="1"> <tr> <td>① 目的妥当性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>② 有効性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>③ 効率性</td> <td>☐ 適切</td> <td>☒ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>④ 公平性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> </table>		① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	② 有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	③ 効率性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり	④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり										
① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
② 有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
③ 効率性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり																					
④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
(4) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☐ 現状維持 事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☒ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) 現状どおり継続して事業を実施する必要がある。 海の安全を維持するために海岸無線局は重要な施設であり、当分の間は運営費に対する支援が必要。		(5) 改革・改善による期待成果 左記(4)により期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。また、1次評価と内容が異なる場合には、1次評価の結果も「○」で記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td>○</td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持	○	●	×	低下		×	×
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持	○	●	×																			
	低下		×	×																			

5 最終評価結果

(1) 行政経営推進会議等での指摘事項
